

J-PARC/MLF 利用者懇談会第 8、9 回総会議事録

日時:2014 年 3 月 19 日(水)12:00~12:40

場所:つくば国際会議場 (つくば) 2 階 中ホール 200

出席者: 56 名 委任状提出: 22 名 合計: 78 名

第 8 回(平成 25 年度第 1 回)総会

総会の成立について

総会 (成立要件: 正会員 1/10 以上の出席) は成立しているが、会則変更 (成立要件: 正会員の 1/2 以上の出席) の要件は満たしていない。

1. 会長挨拶

(1)鳥養会長より挨拶があった。

(2)議長の選出 東北大学大山氏が選出された。

議長の指名により、奥幹事と児玉事務局員が書記に任命された。

2. 平成 25 年度活動報告

(1)鳥養会長から報告

幹事会と分科会を組織して活動した。分科会活動は中性子産業利用推進協議会と連携して開催した。

会員への情報提供サービスとして【メーリングリスト】で発信するとともに、会員交流広場 (<http://mlfusersoc.org/top/>) を開設し、会員からの要望に対応することに活用してきた。

その結果、今年度一般会員 19 名、協賛会員 1 社が増えた。

しかしながら、MLF 利用者全体からみると、まだまだ低い比率であるので、引き続き、大きな変革を行い会員数を増やすべきと考える。

(2) MLF 利用者懇談会総会

本 MLF シンポジウムにおいて総会を開催した。

(MLF シンポジウムの開催が不規則のため 3 年間に 2 回となっている。)

(3)MLF 利用者懇談会幹事会 今年度 3 回開催した。

(4)分科会活動 今年度 9 回開催した。

(杉山正明幹事) 分科会は、単独ではなく、中性子産業利用推進協議会、CROSS と合同で

行い、会員の方に多様な研究活動に参加できるように留意している。

(5)要望活動

- ・平成 25 年 8 月 20 日 茨城県庁を訪ね、MLF 早期運転再開に関する要望書を茨城県知事他、関係部署に提出し、要望活動を行った。
- ・総合科学研究機構理事長に対して、CROSS 東海事業センター長の公募について要望書を送った。

(6)会員への情報配信サービス

メール配信のこれまでの実績 62 件

(7)行事の共催・協賛・後援

主催：物構研サイエンスフェスタ、MLF シンポジウム

第 5 回中性子小角散乱解析法研究会

共催：J-PARC シンポジウム（予定）

(8)会員の入退会状況 2013 年度開始から今までの間に一般会員 19 人増加、協賛会員 1 社増加

3. 会則・細則の変更

会則・細則の変更は、幹事の 2/3 以上が出席する幹事会の議決を経て、総会において出席正会員の過半数で決定される。但し、委任状によって意思を表示した正会員を含む 1/2 の出席正会員数に満たない場合は不成立である。今回はこの要件を満たしていないので、出席会員の意見分布を伺った。

今回の会則・細則の変更内容

(1) 幹事選挙に関して、(関連 会則 22 条、選挙細則 5 条)

現在：任期 2 年で 5 名の幹事を選挙で選出しているが、改選については 1 年ごとに半数の 2~3 名を改選することが規定されている。

※結果的に毎年の選挙となり懇談会の負担、予算規模などを勘案しても負担が大きい。

改訂案：2 年毎に選挙で選ばれる幹事 5 名全員を改選する。

また、幹事候補者の推薦に関し、(関連選挙細則第 4 条 推薦)

現在：5 名以上の正会員から推薦された者と幹事会から推薦された者が幹事候補者とする規定されているが、会員推薦による新しい候補者が出にくい。

改訂案： 3名以上の正会員からの推薦を幹事候補者とする。

(2) 表現の変更 (関連会則 第2条)

現在：「啓蒙活動」という言葉は適切な表現でない。

改定案：「啓発活動」

上記の提案について、出席者全員の賛同が得られた。

しかし、委任状を提出した会員の数と出席した会員の数を足しても、279人の半数を満たしていない。幹事会での検討の結果、次の総会で改めて諮ることとする。

質疑応答

Question:

継続性を考えて、2年ごとに2~3名を選挙で選びなおせばよいのでは？

Answer:

そうすると二期連続4年間務めないといけない人が出てくる。任期二年でかつ毎年選挙せずに済むには、2年ごとに5名を選挙で選ぶことになる。

4. 平成25年度決算(見込み)報告

森井会計幹事より報告

平成25年度予算案は平成25年4月25日の幹事会で承認された。これまでHPやメールにてH25年度予算案を掲載してきた。今回の平成25年度決算は3月末の見込みであり、月末に締めて、幹事会承認後皆様に報告する。今年度は会費収入が悪く、全体として、収入が少なかった。支出においては、2つの分科会がMLFの独自色を出して開催し、他は他団体との協賛により行った。

5. 第4期選挙結果の報告

選挙管理委員長 杉山正明氏より報告

平成25年12月20日に投票を締め切り、48票が有効票であった。平成26年1月8日に開票した。

第4期幹事5名が選出【五十音順】

杉山正明氏、鳥養映子氏、鳥飼直也氏、林眞琴氏、福永俊晴氏

第9回(平成26年度第1回)総会

6. 平成26年度活動計画

第4期会長 鳥養氏より挨拶

会長指名による副会長は 福永俊晴氏にお願いする。

また、会長指名により、施設連携強化役として、奥隆之氏、河村成肇氏、大石一城氏が幹事に選任された。

また、今期は特に広報にも力を入れていく予定である。

第4期はMLF利用者懇談会の新しいあり方への過渡期である。

これからが成果の創出の時期であり、将来計画に向けて走り出す新たな年と位置付け、

ユーザーの総会員化、会員制度会費制度の全面見直しについて、第3期から引き継いだ。

これらを1年以内に総会に諮り実行に移す。また、改革後の制度を軌道に乗せることを第一に活動していく。

(1) 会員制度の全面改正について

今年度中に第2回総会を開きたい。候補として、J-PARC シンポジウム、中性子科学会の会場などを考えている。(今年度は3月までにMLF シンポジウムの単独開催がないため)

(2) MLF の研究成果に基づく、分野を超えた新たな共同研究の創出や利用促進

分科会活動の活性化と最適化を行う。具体的には、CROSS のイベントカレンダーに各分科会や施設のイベントを掲載するので、利用して頂きたい。

(3) J-PARC の将来計画

中性子、中間子科学会が協力して日本学術会議が策定した「大型研究計画に関するマスタープラン」に申請したが、MLF から申請した、中性子、ミュオンの将来計画は、重点課題から漏れた。今後ユーザーの声も集めながらの提言が必要と考える。

(4) ユーザー広場の立ち上げ。

もっと活用して会員との交流を図りたい。

質疑応答

Question

分科会活動の活性化と最適化の具体案は？研究会が多すぎて、出張が多く困る。

分科会などでの出会いはあるが、その後の継続性がいまいちであった。(ユーザーにはなってくれたことがない)

Answer

いくつかの分科会をまとめて行うことなどで検討している。また、MLF だけでなく PF、SPring-8 と連携して、異なった量子ビームとの交流を積極的に進めていきたい。

7. 平成 26 年度予算

会計幹事河村氏より

収入は繰越 39 万円、会費収入 56 万、協賛会員収入 13 万である。また、今回の総会で払われた会費も繰越収入に乗っかってくる。

8. 会員制度に関する意見交換

ユーザー広場に関して、あまり知られていないので、皆さんに知っていただきたい。

MLF に対する疑問、要望、意見を吸い上げたい。好きな時間に HP を見て意見を入れていただきたい。

9. その他

KEK 物構研山田所長より

物質構造科学研究所では大学共同利用を考えるシンポジウムをこれからも継続的に開催していきたいと考えている。

ビームラインに関して、共用促進分と、大学利用形態の部分が混在している。

そのため、実際の実験の時に混乱が生じている。

そこで、これを解消していくために特別シンポジウムを開いて、解消していきたい。

ユーザーにも参加していただいて、意見をどんどん言って欲しい。利用者懇談会にもご協力を頂きたい。

5 月には開催したく、希望として年内あと 2~3 回開きたい。

以上